

小学校・道徳の内容項目の解説

勤勉努力，粘り強さ，希望・向上心

●学習指導要領（平成20年3月）

1 主として自分自身に関すること		〔一般的な呼称例〕
低学年	(2) 自分がやらなければならない勉強や仕事は，しっかりと行う。	勤勉努力
中学年	(2) 自分でやろうと決めたことは，粘り強くやり遂げる。	勤勉・粘り強さ
高学年	(2) より高い目標を立て，希望と勇気をもってくじけないで努力する。	希望・勇気・努力

●解説

関連の説明	勤勉に，くじけず努力し，自分を向上させる児童を育てようとする内容項目である。主に，第3・4学年の1の(2)及び第5・6学年の1の(2)，1の(3)と深くかかわっている。
全体的な理解	児童が自立し，よりよく生きていくためには，自分がやらなければならないことはしっかりとやり抜くことが大切である。そこには，何事にも粘り強く取り組み，努力し続ける忍耐力も求められる。しかし，それは見通しもなく取り組むのではなく，よりよい自己を実現しようとする向上心と結び付いてこそ，前向きな自己の生き方が自覚されてくるといえよう。そのためにも，児童がより高い目標を立てたり，自分としての夢や希望を掲げたりして，その達成や実現への志をもち，勇気をもって取り組むことができるようにすることが重要になる。
低学年	この段階においては，やらなければならないことを素直に受け入れることが多いといわれる。特に親や教師の励ましや賞賛，助言などの下に，この時期の基本的な課題である勉強や自分のなすべき仕事を，自分でやるべきこととしてしっかりと行うことができるよう指導する必要がある。また，やり遂げたときの喜びや充実感を味わい，がんばることができた自分に気付くことができるようにすることが求められる。
中学年	この段階においては，自分がやらなければならないことだけではなく，更に自主性を発揮し，自分でやろうと決めたことに対しても積極的に取り組み，粘り強くやり遂げる精神を育てることが大切になる。そのためには，あきらめずに取り組むことの意義や，今よりよくなりたいと願い，努力しようとする姿について考えを深めていくことが求められる。そのためには，教師の励ましや賞賛が一層重要になる。
高学年	この段階は，児童がそれぞれに高い理想を追い求める時期だといわれる。ある人物の生き方にあこがれたり，自分の夢や希望がふくらんだりする。同時に，自信がもてなかったり，夢と現実との違いを意識したりする時期でもある。このような時期であるからこそ，様々な生き方への関心を高めるとともに，計画的に努力目標を立て，くじけずに希望と勇気をもって取り組み，その理想に向かって着実に前進していこうとする強い意志と実行力を育てる必要がある。その際，希望をもつことの大切さや挫折感を克服する人間の強さについて考えられるようにするとともに，第3・4学年の段階までの勇気に関する内容との関連において，勇気ある姿や真の勇気と蛮勇との違いについて指導することが重要である。そのことを通して，児童の中により積極的な自己像が形成される。

文部科学省「小学校学習指導要領解説・道徳編」（平成20年8月）より

■参考：中学校学習指導要領（平成20年3月）

1 主として自分自身に関すること		〔一般的な呼称例〕
(2) より高い目標を目指し，希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。		希望・勇気・強い意志